

北海道資源生態調査総合事業 資源管理手法開発基礎調査（ホッケ：H25～29年度）

道北日本海およびオホーツク海に分布するホッケ資源の産卵生態・初期生態の解明

背景

- ・ホッケ道北系群は資源状態の悪化に伴い、漁獲量が10万トン前後から2016年には1万7千トンまで減少しました。
- ・産卵場の保護や年級群*ごとの加入**尾数に合わせた漁獲強度の調節による資源管理方策の提言が急務です。

* 年級群：同じ生まれ年の個体をまとめた呼称。2017年級群は2017年生まれ。
 ** 加入： 成長して漁獲対象になること。

成果

1 産卵盛期と産卵場を明らかにしました。

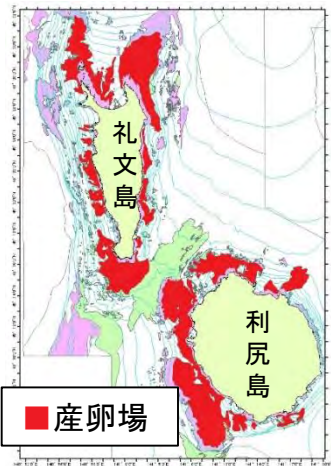


図1 北洋丸により推定された利尻・礼文島ホッケ産卵場

産卵場保護の取り組みに活用します。

2 資源管理目標として、産卵親魚量が3万トン以上必要であることを示しました。

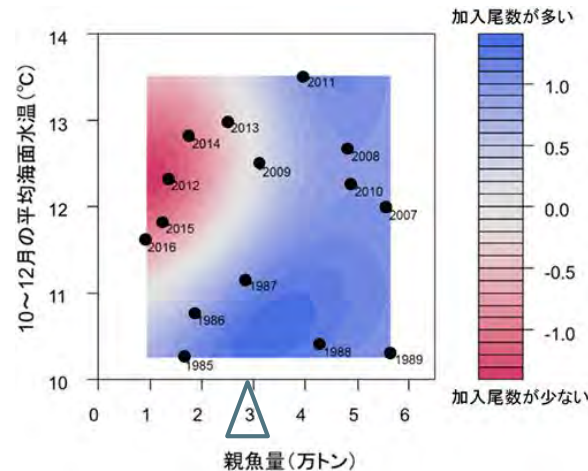


図2 加入の成否に対する水温と親魚量の影響

親魚量が3万トン以上であれば、高水温でも加入が少なくなりにくいことを明らかにしました。

3 日本海沖合における2017年級群の加入数は、これまでより多くなる可能性が高いことがわかりました。

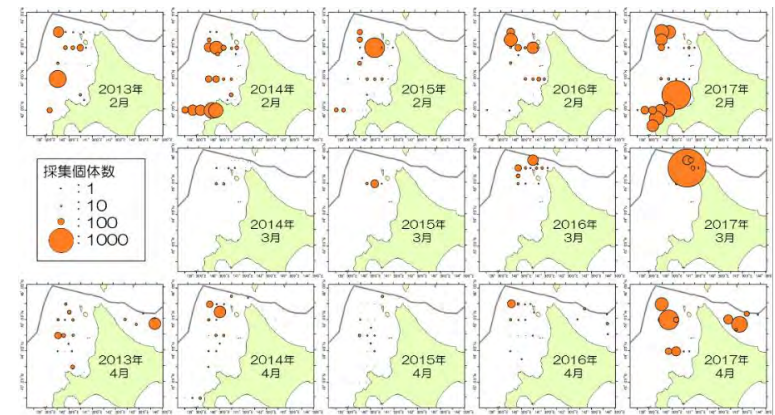


図3 北洋丸により採集されたホッケ仔稚魚の採集量

産卵親魚として活用すれば、資源回復を促進できます。
 →漁業者による自主的な取り控えの実践

期待される効果

- 資源管理のポイントや目標が示されたことにより、資源回復の着実な進展が期待されます。
- 今後も、ホッケ資源管理に関係する行政機関や漁業団体と緊密な連携に活用されます。